

1 便成分混入から直腸癌が見つかった症例

2
3 ○三谷智恵子 坏隆之 佐藤美子(成田赤十字病院)

4
5 **【はじめに】**

6 今回、尿沈渣検査にて便成分が混入していたことから、直腸癌が見つかった症例を経験したので報告する。

7
8
9 **【入院前経過】**

10 69才男性。反復性尿路感染症にて泌尿器科 follow
11 中、尿に便の混入あり。直腸膀胱瘻疑いにて9/16
12 に外科紹介となる。注腸にて直腸癌、膀胱浸潤、イ
13 レウスの診断で9/30入院となる。

14 **【入院時検査結果】**

15 WBC 10200/UL, RBC 355 104*10⁴μl, HB 10.4g/dL, HT
16 30.8g/dL, PLT 40.7*10⁴μl, TP 7.1g/dL, ALB
17 2.8g/dL, GOT 21U/L, GPT 26U/L, LD 136U/L, ALP
18 243U/L, T-BIL 0.5mg/dL, UN 9mg/dL, Cre
19 0.60mg/dL, UA 1.2mg/dL, Na 139mEq/L, K 3.9mEq/L, Cl
20 102mEq/L, Ca 8.7mg/dL, CRP 6.34mg/dL, 尿色調 黒褐
21 色, 混濁 (2+), 比重 1.024, pH 6.0, PRO (3+), GLU
22 (-), Ket (-), BLD (3+), Uro 3.0, BLT (1+), WBC (3+),
23 亜硝酸(+), 尿沈渣 RBC 50-99/HPF, WBC >100/HPF, 細
24 菌(3+), 食物残渣(3+)

25 **【入院後経過】**

26 精査にて直腸癌の局所浸潤が強いため、10/14に人
27 工肛門造設術を行った。10/21にmFO
28 LFOX6を開始し、10/28退院した。

29 **【考察】**

30 尿中に外側が透明な膜で覆われているカプセル状や
31 ラセン状物質を認めた場合は便混入を疑う。ほとん
32 どが肛門からの混入で臨床的意義はないが、稀に膀
33 胱と腸管が交通する膀胱腸瘻がある。

34 **【まとめ】**

35 便混入は特に男性の場合は重要な所見である。この
36 ような場合は、医師に直接報告するなどのコミュニ
37 ケーションを図ることが大切である。

38 0476-22-2311 内線 2282

39